

やどかきりかわらばん

2008年5月
住まいるカレッジ伊勢原事務局
URL:ishii-koumuten.com



5月の第2日曜日は「母の日」。誰もが知っている行事ですが、母の日を祝う習慣はどのようにして生まれたのでしょうか。その起源には諸説ありますが、よく知られているのは「100年ほど前のアメリカ・ウェストヴァージニア州で、アンナ・ジャービスという女性が亡き母を追悼するため、1908年5月10日にフィラデルフィアの教会で赤いカーネーションを配ったのが始まり」という説です。

この風習は1910年、ウェストヴァージニア州の知事が5月第二日曜日を母の日にすると宣言し、やがてアメリカ全土に広まっていき、1914年には5月の第二日曜日が「母の日」と制定されました。ちなみに、日本で初めて母の日のイベントが行われたのは明治末期頃。1915年(大正4年)には教会でお祝いの行事が催されるようになり、徐々に民間に広まっていったと伝えられています。

2008年、今年の母の日はちょうど100周年にあたります。母の日の起源の一つアンナ・ジャービスのお話からちょうど100周年になり、アンナ・ジャービスの生家記念館では今年100周年のイベントが開催されます。母の日の贈り物としてすっかり定着したカーネーション。母性愛を象徴するカーネーションは、聖母マリアが涙した後に咲いた花と言われています。また、カーネーションの中央部の赤色は、キリストの体から散った血の色とも伝えられています。

母の日に縁が深いアンナ・ジャービスの母親がカーネーション好きだったことで、母の日とも関連の深い花になりました。カーネーションの花言葉は、色によって意味がそれぞれ異なります。たとえば赤は「真実の愛」、白は「尊敬」、ピンクは「感謝」を意味するのだとか。

100周年という記念に今年の母の日はいつもよりも特別な感謝を伝えたいですね。

鯉のぼり

鯉幟(こいのぼり)とは元来、江戸時代に武家で始まった、端午の節句である旧暦の5月5日までの梅雨の時期の雨の日に、男児の出世を願って家庭の庭先で飾られた紙・布・不織布などに鯉の絵柄を描き、風をはらませてなびかせる吹流しを鯉の形に模して作ったのぼりのことを言う。阜幟(さつきのぼり)とも言う。現在はグレゴリオ暦(新暦)5月5日まで飾られ、夏の季語として用いられる。飾られる季節も変わり、イメージは「晩春の晴天の日の青空にたなびくもの」となった。

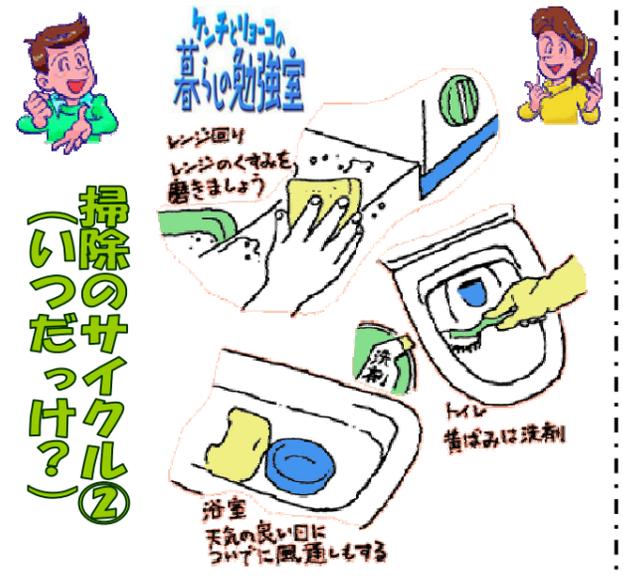
中国の正史、二十四史の一つである後漢書による故事で、黄河の急流にある竜門と呼ばれる滝を多くの魚が登ろうと試みたが鯉のみが登り切り、竜に成ることができたことに因んで鯉の滝登りが立身出世の象徴となった。本来は真鯉(黒い鯉)のみで、明治時代から真鯉(まごい)と緋鯉(ひごい)の対で揚げるようになったが、昭和時代からは家族を表す物として子鯉(青い鯉)を添えた物が主流となった。但し、過渡的に黒と青だけという組み合わせも見られた。

最近では緑やオレンジといった、より華やかな色の子鯉も普及してきており、所によっては女の子も含め家族全員の分の鯉を上げる家もある。暖色の子鯉の増加はそういった需要に応えての事のようなのである。

竿の先に回転球や籠玉、その下に矢車を付け、五色もしくは鯉などを描いた吹流しを一番上に、以下真鯉、緋鯉、等を大きさの順に並べて揚げるのが一般的。

ホームページをリニューアルオープンしました『真心を型ちにする』で検索してみてください

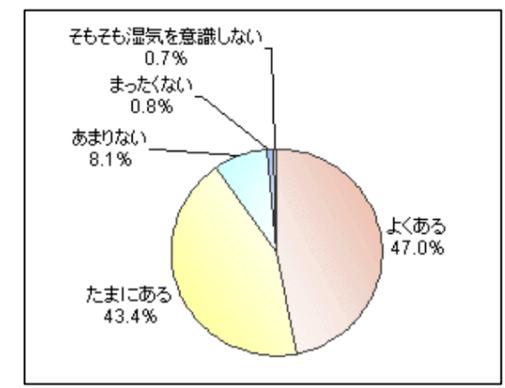
週 に 一 回	レンジ回り		クレンザーで磨く 壁のこびりつきなど中性洗剤などでふきとる。
	トイレ		便器を中性洗剤などでブラッシング。床、壁も洗剤拭きをする。
	洗面台		クレンザーをつけた古歯ブラシでこする。
	浴室		浴槽のこすり洗い。洗剤、クレンザーを使って湯あか落としをする残り湯に洗剤を溶かし小物一晩つけておくことこすり洗いが簡単



●住まいの意識調査● (VOL2)

住まいの“湿気”を考えよう！人にも家にも良くないのは、なぜ？

Q:あなたは湿気が原因で、不快に感じたり、生活で困ったりすることはありますか？(複数回答)



よくある:47.0% たまにある:43.4%
両者を加えると、約9割の人が、湿気を嫌がっていることが分かります。人にも家にも良くないとされる湿気。「全くない」という人は湿気対策が万全に施されている家か、それとも地域の気候的な特色なのかも知れません。いずれにしても、「湿気対策」を建てる前に考えることはとても重要です。

＜アンケート出展＞【調査対象】インターネットコミュニティ「MyVoice」登録メンバー
【調査方法】ウェブ形式アンケート
【調査時期】2007年7月1日～7月5日
【回答者数】13,139名
【実施機関】マイボイスコム株式会社

Q:住まいの中で湿気が最も気になる場所はどこですか？

1位が「風呂場」(59.1%)と圧倒的に高く、2位「押入れ・クローゼット」

3位「脱衣所」4位「寝室」5位「キッチン・台所」までが3割を超えています。

これを見ると、水周り在家中で最も長い時間を過ごす寝室、それに空気の留まる押入れ・クローゼットとなり、家中の空気の流れ、換気の大切さが分かります。アンケートでは、図表であげた以外に、

＜湿気が気になる点＞として、1位「なんとなくじめじめする」(71.6%)

2位「カビの発生」(61.1%) 3位「臭い」(47.8%)で、住む人が我慢せざるを得ない状態になっているようです。また、

＜湿気対策＞として、1位「窓や戸の開閉で換気する」(65.3%)

2位「エアコンによる除湿」(46.6%)、3位「換気扇を回す」(34.0%)の順となっていて、皆さんが色んな工夫をしながらそれぞれに“湿気対策”を講じておられることが伺えます。

今まで長く住んできた家ならまだしも、これから建てようとする家が同じような状況になってしまったらいかがでしょう？やはり我慢して過ごしますか？“我慢せずに済ませる”為に各部屋ごとにエアコンをつけて除湿して適温を保ちますか？では、そうすることが全世界的に叫ばれている「温暖化防止」や、月々の電気代の負担を考えると果たして良いのでしょうか？余計な手間(メンテナンス)をかけず、トータルなコストを抑えながら、しかも年中快適に暮らせるような工夫(シックハウス対策・省エネなど)を、計画段階で考えることが大切です。

